



## おおいたけん あお どうもん 大分県の「青の洞門」はどうして青がつくの

### え どじだい ぜんかい ぼう き ひら 江戸時代に禅海というお坊さんが切り開いたトンネル

おおいたけんほくぶ ほんやばけいまち やまくにがわぞ どうもん あお どうもん どうもん  
大分県北部、本耶馬溪町の山国川沿いにある洞門を「青の洞門」といいます。洞門とはトンネルのことで、このトンネルは、え どじだいちゅうき ぜんかい ぼう ねんいじょう ねんげつ  
江戸時代中期、禅海というお坊さんが30年以上の年月をかけて、1764年ごろに切り開いたトンネルです。ぜんかい とお ひと ちけい  
禅海は、ここを通る人たちが、地形が険しいためとても苦しい思いをして行き来しているのを見て、トンネルをほることを決意したのです。むらびと はじ ぜんかい  
村人は、トンネルをほり始めた禅海を、できるわけがないとあざわらいました。しかし、ぜんかい ねん  
禅海は30年もかけて、とうとうトンネルを完成させたのです。

げんざい べんり きかい じだい かんたん どうぐ つか て  
現在のように便利な機械などない時代に、「のみ」という簡単な道具を使って、手ほりやりとげたのですから、たいへん いし つよ ひと  
意志の強い人だったんですね。

めいじ ねん あたら どうろ ちか いちぶ あ  
1910（明治43）年に新しい道路が近くにできてからは、トンネルの一部と明かり  
まど ほぞん ぜんかい のこ  
のりの窓が保存されています。また、そこに禅海の「のみ」のあとに残されています。

### あお ちめい あお どうもん 「青」という地名のところに「青の洞門」という

どうもん げんざい ほんやばけいまち まち あお なまえ  
この洞門（トンネル）は、現在、本耶馬溪町にあります。町のなかに「青」という名前  
ちく どうもん あお ちく あお どうもん  
の地区があります。洞門は、この青地区にあるので、「青の洞門」といわれるのです。「ど  
この洞門か」というと、あお ちく どうもん あお どうもん  
この洞門かという、青地区にある洞門だよ。だから『青の洞門』というのだよ。」という  
わけです。（監修・保岡 孝之）

